ワケネギ「東京小町」の周年栽培体系における生育特性の解明

【背景と目的】

ワケネギ「東京小町」は、周年栽培可能な品種として、生産現場に普及している。一方で、生産者が利用している在来系統や埼玉県優良系統との収量性の違い、あるいは収穫適期がわかりにくい、といった評価にある。そこで、「東京小町」の作型ごとの収量性や収穫適期を他系統と比較しながら解明する。

【研究概要】

（1）露地栽培の収穫適期は、概ね在来系統と比較して、埼玉優良系統は早く、「東京小町」は遅くなった。上物収量は、在来系統と比較して埼玉優良系統で同等以上、「東京小町」は在来系統を下回った。定植苗重を変えた試験では、「東京小町」の 30g 超苗において、上物重が有意に高くなった。また、1 月定植の「東京小町」は収穫始期から２ヵ月経過しても収穫適期が続き、さらに１ヵ月後における上物 1 本重は 10g 以上となった。

（2）雨よけハウス栽培では、「東京小町」の分げつの生育は 12～２月にはほとんど進まないこと、６月定植では年内収穫できないことがわかった。また、９月定植では、在来系統および埼玉優良系統は抽苔の影響で上物本数が低く推移したが、「東京小町」はほとんど抽苔せず上物重が高くなった。また、「東京小町」の収穫適期は雨よけハウス栽培と露地栽培で、大きくは変わらなかった。

（3）「東京小町」は分げつが進みにくく、細くならない特性を持ち、収穫までの時間はかかるが、上物 1 本重は大きく、在圃性も高い。夏・秋冬植えでの春どり作型は、抽苔が少なく端境期対策にもなり、「東京小町」における推奨作型である。